

会 議 録

会 議 名	令和5年度第1回山形市動物愛護推進協議会
開催日時	令和5年9月28日(木) 10時00分～11時40分
開催場所	山形市動物愛護センター 多目的ルーム
出席者	協議会委員 7名(別紙資料参照) 【事務局】 伊藤健康医療部長、小林センター長、矢矧主査、曾我主査獣医師、 小木曾主任、阿部獣医師
傍聴者の数	0人
議 事	人と猫の共生社会安心プロジェクト(案)について
資 料	別添資料参照

1 開会

2 健康医療部長あいさつ

3 委員自己紹介

4 会長・副会長選任

5 報告事項

- (1) 動物愛護センターにおける事業の実績について
事務局が資料1に基づき説明。以下、質疑応答。

委員

資料3ページの犬の登録、狂犬病予防注射について、接種率が87.4%ということで約1,200頭の犬が接種していないが、毎年接種させていないのは同じ飼い主なのか。前々年度も前年度も接種していないのか。それとも令和3年度は接種したが令和4年度は接種していないのか。その辺の説明をお願いしたい。

事務局

令和3年度の犬の登録頭数は9,503頭であり、令和4年度は9,319頭になっており、接種率については微減した状況である。その状況について、正確な集計を行っていないため明確にはわからないが、同じ飼い主が接種していない傾向にあるのではないかと考えている。接種率向上にはそのような飼い主に接種を促すことが一つの対策になると考えられる。改めてどのような傾向があるのか調査していきたいと思う。

会長

狂犬病予防注射については毎年6月末までに接種することになっている。獣医師会では山形市と委託契約を結んでいるので接種していない場合には催促のハガキを山形市からの依頼を受け発送している。10月に催促のハガキを発送する予定にしている。

委員

接種をしていない飼い主に対しては指導を徹底しておかないと万が一、子どもが犬に噛まれて狂犬病を発症したとなれば大変なことになるので接種の徹底をお願いする。

会長

資料の表現について提案させてもらう。資料1ページの苦情相談の区分について、これまでの統計と比較するために以前からの区分のままにしていると思うが、「その他」の件数が一番多くなっている。特に猫については「その他」が230件にもなっており、そのうち野良猫に関するものが96件と最も多くなっている。だいぶ以前からの区分になっているので、統計の取り方や表現の仕方も検討してもらえば良いと思う。山形市動物愛護センターができて5年目になり、だいぶ動き出してきた。センターができる前年度に山形県で業務をしていたので山形市分の苦情相談件数を調べた上で開設初年度に当センターに赴任してきたのだが、山形県における山形市分の年間の苦情相談件数を開設して3ヶ月で超してしまったという状況があった。最終的には年間で山形県における苦情相談件数の3倍程度の件数になり、その後もそれくらいの件数で推移している。そのような状況から山形県の保健所に比べて山形市動物愛護センターは身近な施設になっていると感じている。

3ページの犬・猫の殺処分の表現の仕方について、いわゆる能動的な殺処分ではなく安楽死したものとの説明があったが、【犬・猫の殺処分】とのタイトルでそのような説明をされると混乱するので、殺処分については3つの区分があることを説明してもらったほうがわかりやすいと思う。3つの区分の中には交通事故などによりセンターに収容した時点で治る見込みがない状態のため動物福祉の観点から致死処分する場合や収容中に死んでしまう場合もある。ただ能動的な殺処分はしていないと説明してもらえればわかりやすいと思う。山形市も含め山形県では能動的な殺処分は行っていない。他自治体においては能動的な殺処分を行っているところもまだまだあるが、山形市では行っていない。ただ、その弊害もあって大変だと思うが、そこを強調してもらえると良いと思う。

事務局

先ほどの殺処分の区分について説明させてもらう。先ほど説明したとおり、令和4年度については猫25頭のうち3頭については治癒見込みのない病気などによる致死処分、残りの22頭についてはセンターで世話している中で自然と亡くなった収容中死亡である。譲渡対象になるような猫の殺処分は行っていないことを改め

て報告させてもらおう。

委員

今の説明だと殺処分はゼロになるので、そのような区分に分けて記載してもらおうとわかりやすいと思う。

委員

環境省の区分で分けているので記載方法は変えられないのではないかな。

事務局

環境省の区分に合わせてこのように表現しているところだが、山形市として市民に分かりやすい表現で丁寧に情報提供していきたいと思う。殺処分という表現は残るがそこについてはゼロということで開示していきたいと思う。

委員

山形市の場合は殺処分を行っていないが、特に犬の場合は譲渡することで事故につながることもあるため、そのような犬を殺処分している自治体もあると思う。

会長

そのような犬については譲渡適正判定を行った上で攻撃性があるため譲渡に適さないと判断して殺処分する場合はある。

(2) 犬のふん害対策（イエローチョーク作戦）について

事務局が資料2に基づき説明。以下、質疑応答。

会長

令和4年度の事業概要に実施期間は概ね1ヶ月間とすると記載があるが、実施結果の期間が令和4年4月1日～令和4年12月末となっている。その整合性はどのようにになっているのか教えてもらいたい。

事務局

1ヶ月間とは申込者がその地区でイエローチョーク作戦を実施する期間であり、この事業全体としては4月1日から12月末まで実施しているということである。言葉がかぶってしまいわかりづらいがそのように理解いただきたい。

委員

町内会にはセンターから打診したのか。もっと多くの町内会に参加してもらえば良いと思う。広報やまがたなどに記載してあったが、もっとアピールしたほうが良い。おそらく動物病院の先生もイエローチョーク作戦について把握していないと思うので動物病院にチラシを配布しても良いのではないかな。

事務局

周知について、自治推進委員長会議の際に地域の代表や広報やまがたで周知してきたところであるが、まだまだ周知が足りないとのこと指摘だと思うので、機会を捉えて周知していきたいと思う。

委員

回覧板で回覧しても犬を飼っていない住民は無関心である。犬を飼っている飼い主にわかってもらうことが重要である。個人情報の問題もあるので飼い主に対して直接指導することはできないと思うので飼い主に気づいてもらうために何度も回覧し周知することが優先になると思う。

事務局

資料2の令和5年度実施概要の飼い主への意識啓発について、当センターに犬の登録などで来所された方には周知しているが、飼い主へ周知してもらうため動物病院へのチラシ設置が可能か獣医師会でも検討してもらえるとありがたい。

会長

検討する。飼い主のマナーの問題ではあるが、迷惑している人がいるということを知ってもらう必要もあるのでイエローチョーク作戦については今年度も引き続きお願いする。

(3) ミルクボランティアについて

事務局が資料3に基づき説明。以下、質疑応答。

委員

離乳前の子猫の収容はどのくらいあるのか。

事務局

令和4年度について猫全体の収容頭数約180頭のうち離乳前の子猫は30～40頭程度であった。令和5年度について昨年度より減っているが現時点で離乳前の子猫は10～20頭程度収容している。

委員

離乳前の子猫を10～20頭程度収容しているとのことだが、そのうちセンターではどのくらいの頭数を世話しているのか。

事務局

ミルクボランティアに世話をお願いしたのがこれまで3頭なのでそれ以外の子猫はセンター職員が世話している。

委員

ミルクボランティアに世話してもらう頭数をかきちんと示した方がボランティアをする側にもわかりやすいと思う。子猫の収容頭数がこれくらいなのでミルクボランティアがこれくらい必要ということを明確にした方が良い。職員を対象とした募集では65組が手をあげて最終的には2組にお願いしたとのことだが2組だけでよかったのか。10組必要なのであれば10組必要であると示した上で募集した方がより良いと思う。

事務局

令和5年度の取り組みとして今回初めてミルクボランティアを実施した。市職員は1,900人程度いるが全員にミルクボランティアに関するアンケートを行い、その結果、65組が興味があるとの回答であった。その中で実際に飼えるかどうか確認をしたところ、アパートなので飼えないとか日中不在なので飼えないとか絞り込みをしていくと実際にできる人が少なくなったということである。先ほど委員から提案があったとおりミルクボランティアが10組必要であると募集した方がやる気も出ると思うので貴重な意見として参考にしたい。なお、離乳前の子猫の収容頭数についてはその月によって大きく増減するので収容頭数を見込むのが難しいが、より多くの方から協力してもらいたいと考えている。

委員

資料に収容頭数が増える中で人員が不足しているとあるので、市の担当部署にも増員の申し入れをしっかりとした方が良いと思う。

事務局

センターの現在の人員が適正なのか精査した上で必要な場合には増員等の対応を取っていきたいと考えている。

会長

一つ確認したいのだが、65組の希望者がおり説明会に参加したのは10組となっている。その後、審査を行ったところミルクボランティアをお願いしたのは2組となっているが、審査の中で、この人には任せられないと判断し断ったケースもあったのか。

事務局

説明会など獣医師が対応した中でこの人には任せられないと判断し断った人はいない。居住環境など物理的な条件で絞り込みを行ったところである。

会長

今後は必要なボランティア数に応じて増やしていきたいという考え方でよいか。

事務局

そのとおりである。

委員

ミルクボランティアを2組にお願いしているが、市役所の職員が世話しているのか。

事務局

職員は日中仕事をしているので家族から協力してもらいながら世話してもらっている。

会長

子猫の収容頭数は季節によって急激に増えることもあるので信頼できるボランティアを確保しておくことは非常に有意義だと思う。うまくセンターが回るように進めてもらいたい。

(4) 多頭飼育への対応について

事務局が資料4に基づき説明。以下、質疑応答。

会長

多頭飼育は探知してからこんな状態だったのかと判明することがある。多頭飼育については環境省で作成したガイドラインがあり詳しく掲載されている。ガイドラインの中には全国から集めた事例の紹介もある。ただ、そのような事例に当てはまるケースだけでもない。ガイドラインの副題にもあるように福祉関係と連携することが重要になる。先日は猫2頭しかいなかったのに今回は子猫が生まれていたという気づきが非常に大切である。福祉関係で訪問する人のカルテに犬・猫に関する記載事項を追加してもらえれば未然防止にもつながると思う。資料4のケース2では警察にも動いてもらっているが多頭飼育案件では虐待やネグレクトが絡んでくることもある。動物虐待等についても環境省でガイドラインを作成しており、対応のフローチャートが示されている。山形警察署とも協議しながらこれまでも進めてきたので連携しながら進めてもらいたい。獣医師においては動物虐待案件を探知した場合の通報義務が動物愛護管理法に規定された。多頭飼育崩壊というのは社会的弱者が原因になってしまうことが多いので関係部署と連携しながら取り組んでももらいたい。多頭飼育崩壊した現場の犬・猫の受け皿が動物愛護センターしかないのが非常に大変だと思うが引き続き取り組んでももらいたい。

委員

多頭飼育とは定義的に何頭からをいうのか。

事務局

環境省では具体的な頭数を示していない。飼い主が適正に飼育できる許容範囲を超えたものが多頭飼育になる。

6 協議事項

(1) 人と猫の共生社会安心プロジェクト（案）について

事務局が資料5に基づき説明。以下、質疑応答。

委員

プロジェクトについては良いと思う。野良猫に関して確認したいのだが、資料1の苦情相談件数が96件となっている中で、不妊去勢手術費補助金交付事業を行っているが野良猫の頭数は減ってきているのか。

会長

平成28年の研究発表で地域猫対策について感銘を受けた発表があった。公衆衛生獣医師協議会で台東保健所が発表したもので地域猫活動の10年間について取りまとめたものになる。このように地域猫活動を進めても10年かかるんだなと思ったところである。この発表で示されていたが、猫の引取り数や苦情件数などが年々右肩下がりに減少してきた。また、路上での猫の死亡数も減少しているとのことであった。山形県動物愛護管理推進計画の18ページに県内の自治体における路上で死んでいる猫の回収頭数が記載されている。県内の自治体においては市民から死んでいる猫の通報があった場合には回収しに行くことになっている。路上死している猫の頭数は人口や外猫の頭数と相関関係があると言われている。山形県全体の死亡猫の収容頭数のデータを見ると平成25年度には3,514頭であったが、動物愛護団体でアンダー3000、いわゆる県内における猫の路上での死体の回収数を3,000頭以下にしようとするものであり、それを合言葉に活動を進めてきたところ、令和2年度に3,000頭以下となった。先ほど説明したとおり、路上死している猫の数と外猫の数に相関関係があると言われているので外猫も減ってきているのではないかと考えられる。山形市に関して、死亡猫の収容頭数が令和2年度527頭であったが令和4年度は392頭になっているので、外猫が非常に減ってきているのではないかと思う。実際には業者が回収している数よりも多くの猫が死んでいると思うが、回収されている死亡猫の頭数は減ってきている。台東区の推移を見ても路上死の猫の収容頭数は右肩下がりに減少している。その代わりに右肩上がりに増加しているのが不妊去勢手術した猫の頭数や地域猫ボランティアの数である。そのような効果があり苦情件数が減ってきたが先進的な自治体でも10年かかり、ここまできたのだと思う。

台東区の研究発表の中には支援として経済的な支援と精神的な支援の両面が必要であると強調されている。ぜひ、今回のプロジェクト（案）についても経済的な支援だけでなく精神的な支援というところも踏まえながら進めてもらいたい。猫に関する苦情はすぐには解決しない問題である。10年以上かかってもおかしくない

と思う。経済的や精神的な支援と信頼関係のもとにプロジェクトを進めていってもらいたい。野良猫の頭数が実際に減っているかはわからないが不妊去勢手術や地域猫活動によって蛇口が閉まってきていると思いたい。

委員

事務局が地域猫という言葉を使ったことに非常に驚いている。センターと一緒に活動している現場で子猫を何とか保護し預かった案件があった。その猫は犬に襲われて死んでしまった猫の兄弟でセンターに引取り依頼をしたが断られ、元の場所に戻した猫であった。ものすごく気の荒い猫に育てていて捕獲するのに苦労した。その子の捕獲については地域の方も陰ながら応援してくれていた。活動する上でどのような呼び方でも良いと思っているが、最初に地域猫活動部とつけたのでそのまま色々な町内会のお手伝いをしている。町内会では猫の活動ができないのであなたに任せるといふ地域もある。同じ地域に3年通っているがまだ終わらない地域もある。そういう状況の中、不妊去勢手術代やエサ代が値上がりしているのももちろん経済的な支援も必要だが、手術費のみの支援では負担が大きい。だからと言って投げ出すこともできない状況である。そんな中、困っているんじゃないのと声をかけてくれる人もいる。一方でセンターからいくらもらっているのと言われたこともありトラウマになっている。これまではコロナ禍の中、町内会のイベントなどが中止になっていたが今年度は色々なイベントが再開されている。そちらへの支出があるので、これまで開催してきた講演会を単独でするのは難しいと感じている。ぜひ、多頭飼育問題の講演会を山形市として行ってもらいたい。

今回示されたプロジェクトにどのように関わり、協力していけるかはわからないが、時間をかけてここまでやってきたのであと3年はがんばりたいと思っている。その間に次の世代である40代50代のメンバーに引き継いでいきたいと考えている。センター職員とも連携しながら現場に行っているが、対応のスピードだけあげてもらいたい。1か月もかかるとなると子猫はあっという間に大きくなってしまふ。そうすると新しい飼い主を探すのに非常に苦労する。また、離乳前の子猫にミルクを与え苦労しながら育てたこともあった。そういう猫が新しい飼い主のもとに行ったり、初めは猫を嫌がっていた人が「猫帰ってきたのかあ。仕方ないから面倒見るしかないなあ。」と言ってくれたときはうれしかった。

現在は様々なメンバーと協力しており、山形大学の動物愛護サークルや西蔵王にある虹のネットワークという障害のある人を支援する施設と連携しグッズの作製を行っている。このように工夫しながら何とかやっていきたいと思っている。

また、社会福祉協議会から多頭飼育崩壊の事案について3件くらい相談が来ている。こちらについては今年度中に話ができるように進めたいと考えている。このような現場でエサやりさんと初めて会うときはものすごく怖い人かもしれないと思いつながら行くが会ってみると非常にいい人もいます。このプロジェクトが良い方向に進むよう協力するので皆さんからも色々教えてもらえればと思う。

委員

実際に支援対象の団体は何団体くらいあるのか。

事務局

12カ所の現場で活動してくれる団体に支援できないかと考えているところである。

委員

このような活動に対して山形市が支援してくれるのはありがたい。今後、練馬区のようになっていつてもらいたい。活動が終わった後の地域へのフォローも重要である。合わせて社会福祉協議会との連携も必要であると思う。

委員

保健所の他の部署とも連携が必要であると思う。センターや警察だけで現場に行っては警戒されることもあるので人間の方のフォローも必要だと思う。

委員

素朴な疑問だが市内にはどのくらいの猫がいるのか。

事務局

犬については登録制なので把握できるが、猫については把握できていない。

会長

室内で飼っている猫については把握できるかもしれないが、外で生活している猫については把握できるかもわからない。猫の繁殖能力はすごく、年に数回繁殖期があり、1回で4・5頭生まれるし死んでしまう猫もいるので把握するのは難しい。猫の苦情が出始めたのが山形県内だと平成20年くらいからで平成24・25年がピークであった。その後、猫の引取りをしないなど様々な施策を行った。現在は猫の苦情が多くなっており、むやみなエサやりが原因になっていると思う。むやみにエサをやると猫が集まり、そこで猫が増えてしまう。私が保健所で働いていたときの話だが外猫は誰の猫でもないとの考えのもと、町内会長から依頼があったときには引き取り殺処分していた。平成20年くらいまではその辺にいる猫を連れてきては殺処分するということを繰り返していた。全国的に殺処分だけするのはおかしいのではないかとの話が獣医師の中からあがり現在に至っている。その当時の取り組みは施策を後回しにしたようなものであり、そのツケが現在のこのような状況につながっているのだとつくづく思っているところである。

7 その他

8 閉会